

## 平成 30 年度第 3 回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：平成 30 年 7 月 13 日（金曜）19:00～20:30

場 所：TAMA 女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神子島健委員、神山直子委員、堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下 50 音順）

欠席委員：なし

事務局：山本課長、西主査、丹羽

傍聴者：1 名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 1 開会

### 2 報 告

#### (1) 平成 30 年度第 2 回多摩市男女平等参画推進審議会要点録について

◇平成 30 年度第 2 回要点録（案）について修正等があればこの場でご意見をいただくか、7 月 20 日（金）までに事務局に連絡をいただきたい。（後日、修正なしで要点録を確定した。）

### 3 議 題

#### (1) 平成 29 年度「多摩市女と男がともに生きる行動計画」推進状況の外部評価について

◇資料 14<sup>1</sup>に基づき、事務局から外部評価案について説明。

##### 【(3) 女性センターの認知度上昇に向けて】

- 平成 25 年度 46.5%→平成 27 年度 48.2%→平成 29 年度 44.9%という変遷なので、「飛躍的に認知度が伸びているとは言いがたい」という表現よりも、「比較しても伸び悩んでいる状況です」という表現の方が適切である。
- ニュータウン地域の人にとって女性センターはアクセスが悪い、口コミで広がりにくいという課題がある。結果として認知度が上がらない要因となっているのではないか。ニュータウン地域でイベントを実施することも提案していきたい。
- ◎ニュータウン地域など女性センターから離れた場所で出前講座やイベントなどを行い、地域格差をなくすための努力を行ってほしいという提案はぜひ加えたい。具体的には、2 段落の「例えば」から「現実的には難しいことから、」までを削除し、地域格差について加筆するのはどうか。
- 「累計の参加者数が 2,000 名」の部分も、「一定程度の目標値を定めて」くらいでいいのではないか。
- ◎「…著名な講師を招聘するなど実現可能な方法を探っていくことも必要です」

<sup>1</sup> 資料 14 平成 29 年度 多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評価（案）

かどうか。

- 一番最後の段落、「今後はぜひ推進していただきたいと考えます。」と修正してほしい。

#### 【(4) 地域で活動する市民団体の支援】

- (3)の認知度のパラグラフで「行政は民間から遅れを取っている」と指摘していることと、(4)の3段落目「国や東京都などでは目まぐるしい勢いでIT化が進んでいる」の部分が矛盾してしまう。
- 「国や東京都など」を削除して、一般的にIT化が進んでいるという文脈にするのはどうか。
- ◎では、国や東京都と多摩市の比較ではなく、社会全体と多摩市の比較とする。
- ◎「パートナーに暴力を受けて相談しにいくところ、子育てに悩んでいる女性が相談しにいくところというイメージがまだ強固にあります」の表現はどうか。
- 子育てで悩む若い女性はあまり女性センターには行かないと思う。女性センターで何をやっているのか、何ができるのか分かり難いのだろう。
- ◎女性センターを拠点に様々な団体が活動し、団体同士での交流が生まれ、ネットワークが出来ていくのが最大の強みなのだろう。そのためには大いに活用されていないといけない。
- 市民活動というと公民館をイメージしてしまう。女性センターと公民館の切り分けが一般の市民には難しい。
- ◎「パートナーに暴力を受けて相談しにいくところといったイメージがあります」という表現に変えるのはどうか。むしろ、子育て中の女性が悩んできてもらえるように、女性センターは考えないといけない。
- 未満児の親は子育て施設に行ってしまうので、女性センターに行くという発想がないかもしれない。
- ◎1歳児以上になると、託児付きのセミナーに行けるようになる。20年ほど前は講座の内容はともかく、託児付きだからセミナーに行くという人も結構いた。そういう人同士で仲良くなって例えば子育てサークルを作るという流れが出来てくると良いと思う。
- (3)の認知度の低さには、若年層の認知度が低いというのもあると思う。若い世代の認知度を高めるにはどうしたらいいのか、どのような工夫ができるのか、女性センターの活動内容とともに考えたほうがいいのかなどと思う。
- ◎5段落目の起業支援については、公民館や生涯学習センターで行うコミュニティビジネスの講座等と連携することも可能性として検討して欲しい。
- ◎では、評価については以上で審議を終える。最終的な文言の確定については会長・副会長・事務局に一任いただきたい。  
→委員了承

#### 【次回以降の審議会に向けて】

- ◎提言のテーマについて、本格的な議論は次回行うとして、簡単なアイデア出し程度をこの場でできればと思っている。
- ◇市の課題としては、条例ができたことで男女平等がどれくらい進んだか市民が

実感しにくいというものがある。女性の視点に立ったまちづくりを市民が実感するためにどのようなことをすればいいかご意見をいただきたい。

- ◎市民の実感という、街の景観が変わることではないか。かつてはデパートの女性トイレにベビーベッドはあっても個室にベビーキープはなかった。今は個室にベビーキープが付いている。これは目に見える変化だった。
- 男性トイレの個室にもベビーキープを設置するのはどうか。
- 誰でもトイレがあれば、ベビーカーごと入室する人も多だろう。
- 市の各種公共施設の男性トイレにベビーキープがどれくらいあって、ない場合はだれでもトイレがあるかどうかを女性センターと関わる団体や学生と連携して調査して報告書をまとめると、目に見えるし、主体的に動く市民の育成もできる。
- 多摩市は若いお母さんが子育てしやすい街というイメージが持てる施策ができればいいと思う。
- 唐木田のコミセンは立地上の問題もあると思うが、若い子連れの市民が集まってコミュニケーションの場になっている。ベビーカーを置けるエリアを作り、子連れで来やすいようにした。
- ベビーカーを持って電車に乗ると視線が冷たい。例えばマナーポスターを作ってみても良いのでは。
- 一方で、女性の視点＝育児になってしまうところに少し引っかかる。
- 男性も家事や子育てを当たり前にするようになれば、女性の視点に立ったまちづくりが実現できるのではないか。
- 女性の視点に立ったまちづくりという、やはり防災ではないか。防災時の女性トイレが男性トイレと同じ個数しかないとすごく不便なのでそれを増やすのはどうか。また、女性が安心して使うには、男女兼用と女性専用トイレが必要。
- 西日本豪雨災害のこともある。防災の観点で、女性の視点に立ったまちづくりがきちんとできているかチェックしてもいいのかと思う。
- 品川区は、女性の視点に立った防災計画を審議会で作った。
- 防災に関しては、女性視点の問題もあるし、介護、高齢、障害など幅広い視点がある。
- ◎次回はどのような提言にするかをテーマにしたいので、事務局のほうでいくつかテーマの候補を挙げていただければと思う。それをもとに議論を進めていく。

## (2) その他

### 【平成 30 年度第 4 回推進審議会の開催予定】

(議題) 現在の多摩市を取り巻く課題の抽出及び提言のテーマ・方向性について

(日時) 平成 30 年 8 月 21 日(火曜) 19 時～

(場所) TAMA 女性センター 活動交流室

### 【平成 30 年度第 5 回推進審議会の開催予定】

(議題) 政策提言(現状及び課題の分析)

(日時) 平成 30 年 10 月 5 日(金曜) 19 時～

(場所) TAMA 女性センター 活動交流室

## 4 閉会